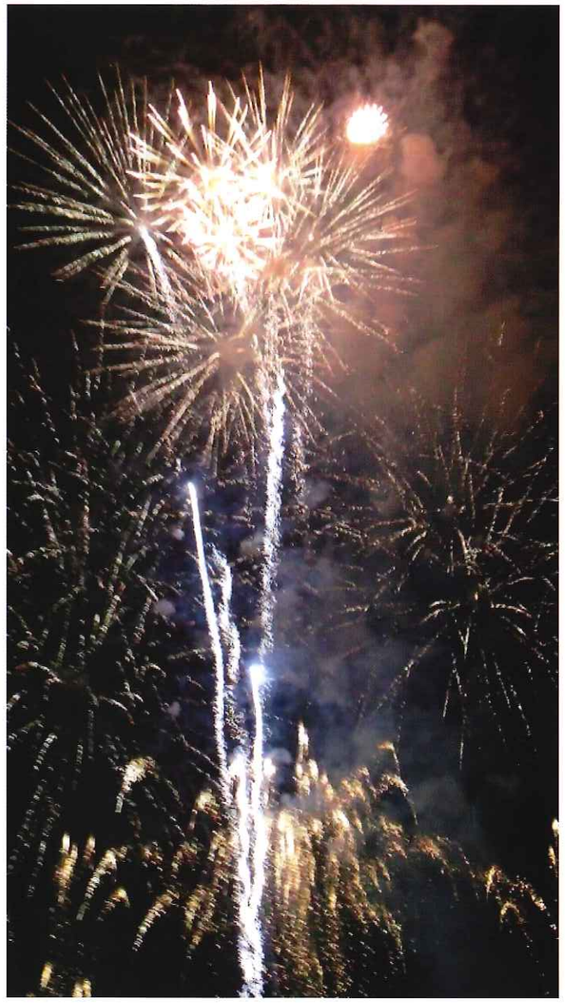


志賀郷ヤマカミ新聞

創刊号
2013年（平成25年）
8月26日（月曜日）

発行所
ヤマカミ計画（ヤマカミハウス）

© ヤマカミ計画　2013年

〒623-0343　綾部市志賀郷町山ノ神11
電話　滋野　080-3825-7047
E-mail　yamakamihouse@gmail.com
Facebook　www.fb.com/yamakamihouse

志賀郷の元気印、田園を照らす。

８月１４日（水曜日）、志賀郷納涼花火大会がＪＡ何北支店前にて催された。

花火大会は毎年、地元の有志で運営されており、今年で２７回目。花火大会では、屋台が１０軒ほど出店されており、竹松うどん店の美味しいうどんや、あじき堂の蕎麦、志賀郷加工センターで作られた特産品などが店先に並ぶ。２０時頃から打ち上げられる花火は、１０分ほどの短いひと時だが、カメラにおさまりきらないほどの豪快な花火を間近に見ることができる。大規模な花火大会とはひと味違う、田舎らしく小じんまりとした花火大会で、花火の打ち上げが始まる直前に会場へ足を運んでも、その輝きを間近に見ることができる。

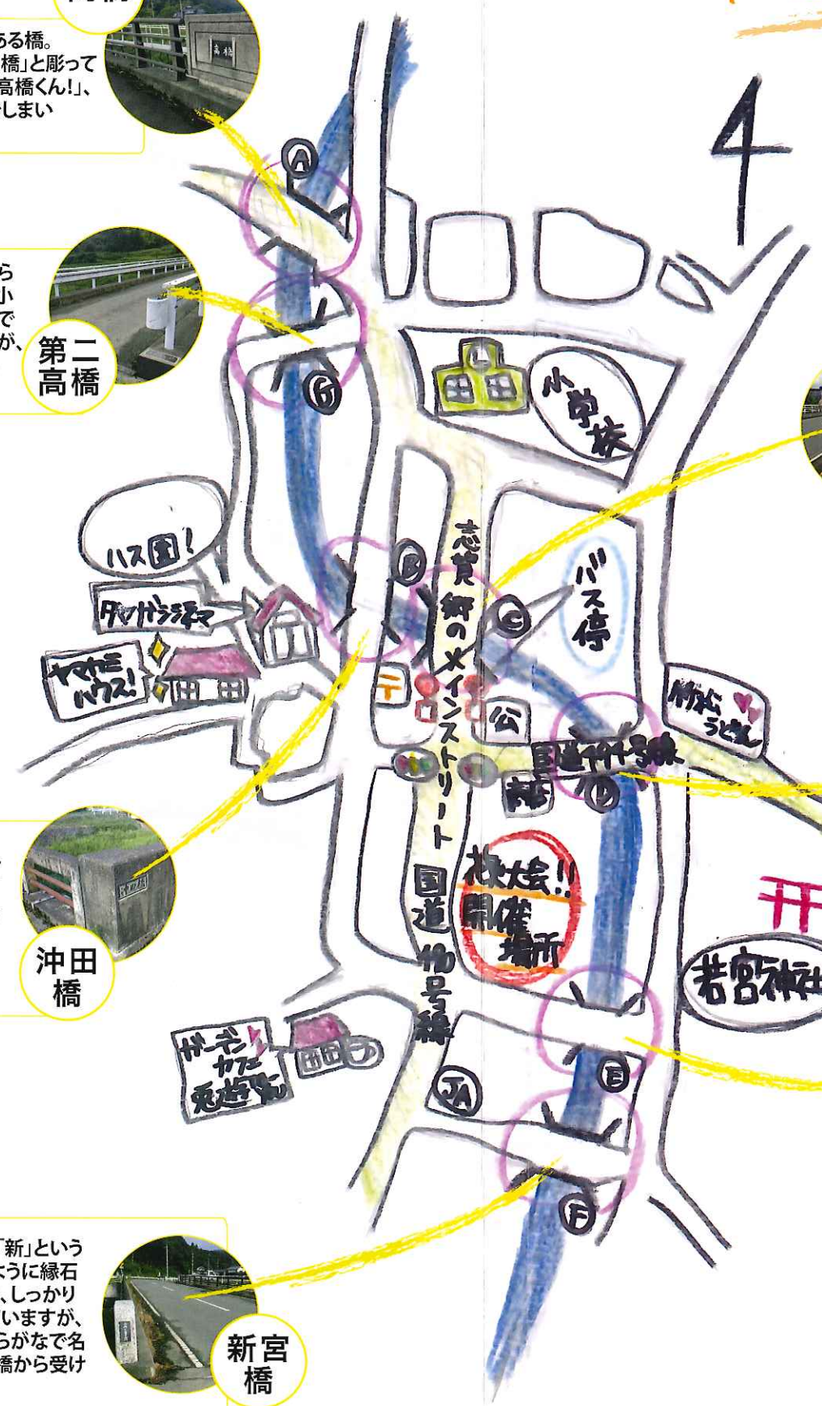
花火大会の見所は、打ちあがった瞬間に田園の緑が花火に照らされ一面広がるところ、そして打ち上げている花火師達の頑張っている姿が見えるところだ。

第二面では、この花火大会を運営されている同大会実行委員の塩見昇さんと倉橋止之さんにお話を伺った。

（第二面に続く）

志賀郷 Map

「橋」特集！



高橋

そこの地名であり、高い位置にある橋。黒い石の下地に白い文字で「高橋」と彫ってあるので表札に見えてしまい、「高橋くん！」、「高橋さん！」と苗字として呼んでしまいたくなる不思議な橋です。

第二高橋

橋の位置が高く、高橋の次に造られた橋。南の方の子どもたちが小学校に通うために造られたそうです。景観は畑や自然は多いですが、取材が夏休みのせいか、子どもより車を見ます。

志賀郷橋

志賀郷の大通りを繋ぐ橋。最も広い道路ですが、車の交通量が少なく近くの信号は半永久的に黄色信号が点灯しています。バス停の近くなので、時々その橋を渡るピンク色の路線バスの「あやバス」が印象的です。

下町橋

下町という地名が由来の橋。端の古いコンクリートに添えるように鉄鋼が組まれているところや、川のカーブ地点でそれに沿うように立つ家々が特徴的ですが、西からですと、「竹松うどん」への通過点なので「うどん橋」と覚えてしまいそうです。

沖田橋

沖田というここの地名が由来の橋。志賀郷橋と平行していて、橋の南側は江戸時代からあったそうです。橋自体は最近舗装されてなく、地面がおうとつでゴボゴボしており、古いコンクリートが使われています。

宮橋

若宮神社の近くにある橋。そこへお参りをするときに使われることが多いです。錆びた鉄パイプやひびの入ったコンクリート、「みやはし」とひらがなで彫ってあるところに田舎の良き古さを感じます。

新宮橋

宮橋に平行する橋。「新」というだけあって、車道のように縁石線が引かれていたり、しっかりした鉄鋼が使われていますが、「しんみやはし」とひらがなで名前を彫るところは宮橋から受け継がれています。

【西口諒、足立美里】

憩い、つながる、皆の第二の「家」を目指して

ヤマカミハウス（志賀郷町山ノ神11 滋野哲 宅）

「ヤマカミハウス（山ノ神11）」は、元志賀小校長の故・滋野哲さんの孫である滋野義則さん（兄）と正道さん（弟）が空き家となっていた祖父母の家を活用し、運営している。

ヤマカミハウスに隣接している元縫製工場を会場に、今年4月には「春待ちココカラ市」を。同じく隣接の「タガヤシシネマ」では月に一度、映画の上映会を開催している。

「都会の人と志賀郷の人がゆるやかにつながり、交流できる場所にしたい。将来的には、みんなが「ただいま」「おかえり」と気軽に帰ってくることのできる、もうひとつの家をつくりたい。たくさんの人が自然に集う場所になれば」と滋野さんは話しています。【安達愛奈】

編集後記

大学生が新聞記者となり、若者の目線から見た、「志賀郷の今」を本当の新聞記事の様にまとめてみました。いかがでしたでしょうか？新聞記者となった4人の大学生は、大学も違えば学年も違う、ほぼ初対面で、志賀郷に訪れ、1週間の滞在で、取材・編集を進めました。始めはぎこちなかった彼ら彼女らですが、いつの間にか「結束」が生まれていました。本当に良い経験になったのではないかと感じています。

さて、紙面末尾で恐縮ですが、今回の新聞編集にあたって、御協力頂いた多くの皆様、本当にありがとうございました。【滋野正道】

綾部・志賀郷に、月イチ映画館。
タガヤシシネマ
https://www.fb.com/tagayashicinema

「志賀郷ヤマカミ新聞」は、
京都府からの委託を受け「一般社団法人 京都府北部地域・大学連携機構」の事務局サポートのうえ、
学生任意団体「Youth Telescope」が主催した企画【京都で夏旅】での取組みの一環で制作しました。

「写真で日々の感動を残したい」

河北 ひさ子さん
志賀郷地区自治会連合会
志賀郷公民館　主事

今回の取材で、河北さんに様々な方を紹介していただきました。様々なお話を通して、身をもって「人とのつながり」を感じることができました。志賀郷に訪れる人を温かく迎え入れてくれる優しさが、「人とのつながり」を支えているのだと感じました。【安達愛奈】

今回は志賀郷公民館に勤める 河北ひさこさんに、志賀郷の七不思議のお話や志賀郷の人たちについて色々なお話を伺いました。

河北さんの趣味は「写真を撮ること」朝日や夕焼け、花の写真などたくさんの写真を見せて頂きました。霜柱をかぶった草花や夕陽に染まる雲の光景が「とても綺麗で好きだ」と活き活きとした表情でお話しくださいました。写真を見ながら楽しそうに話す河北さんは本当にキラキラしていて、何度でも会いに行きたくなるような素敵な方でした。

「人のつながりが魅力」

志賀郷の魅力は「やっぱり人と人とのつながりが強いところ。志賀郷は（都会に比べて）人が少なく、小じんまりしていて、子供も大人も、つながりが深くなっている」と河北さんは優しい笑顔でお話くださいました。

とんちゃんのコラム「自然からハッピーを」

あなたは、道端に生えている植物を見て、何を感じますか？
通り雨が上がり、午後の志賀郷を歩いていたところ、植物に乗っている雨粒がキラキラして、輝く様子に私は引きつけられました。

キラキラしている様子が、まるで小さなダイヤモンドのようで、植物に乗っている様子が滑り台のようでした。
たくさんの滑り台の上に、小さなダイヤモンドが集まって、
さらに輝きが増していったことを覚えています。

これを読んでくださった貴方の街にも、きっと引きつけられる何かがあると思います。
お散歩がてらに探してみるのもいかがでしょうか。
【足立美里】

此処で花火、最高でしょ！

～志賀郷納涼花火大会 実行委員 塩見 昇さん～

村の為に、気張る気持ち

～同花火大会 実行委員 倉橋 正之さん～

楽しみを追い続け、27年。

花火大会で人との交流を。

「年をとってくるとなかなか遠くにいけない。けど、志賀郷の花火だったら縁側の窓を開けるだけで花火が見られる、これって最高でしょ！」

地元の方だけでなく志賀郷を離れている方も、花火大会を楽しみに此処に戻ってくる。そんな方たちのためにも花火大会を催し続けたいと大会実行委員の塩見昇さんは笑顔で話されていた。塩見さんが花火大会を続けている一番の理由は「何よりも自分たちが楽しみ」であることだ。運営している自分たちが何よりも一番楽しみにしているからこそ、花火大会は27年間続いている。「花火大会を通して人と人が出会える、そんな場にしていきたい」と、今後の展望についても語って頂いた。

取り組み当初、20発の花火からスタート

花火大会を始めた当初は20発の打ち上げ花火であった。それでも、花火を見た人たちはとても感動してくれた。花火大会を始めて、徐々に志賀郷に戻ってくる人が増え始めた。

運営資金の面においては、花火大会を始めた当初は調達が難しかったとのこと。

しかし今となっては、志賀郷を代表する夏の恒例行事となり、花火大会を楽しみにしている人々の寄付により成り立っている。

一時期は、花火大会の開催を見合わすことも検討した事もあった。しかし今では、毎年楽しみに待ってくれている村の人たちのために、「気張る気持ち」を持って運営に携わっている、と同大会実行委員の倉橋正之さんは花火大会にかける熱い想いを明かしてくれた。【中川剛成】